

次の元号を予想する

抄 録

研究目的は、元号の成り立ちを知り、次の元号を予想することである。元号とは中国の皇帝が領土や領民を時間的に支配するために作られた。しかし中国では100年ほど前、辛亥革命によって、元号は清朝の滅亡とともに廃止された。日本以外の周辺国でも王制から共和制の移行で廃止され、今では日本だけとなっている。

元号の選び方も調べ、次は何になるのか予想を行った。条件にあてはまる漢字を選び出し私が予想した元号は「安節」である。

キーワード：元号，天皇，昭和，平成

1. はじめに

1.1 研究動機

私は西暦があるのになぜ元号もあるのか疑問に思っていた。今回、天皇陛下が退位することになり、いろいろな人によって予想されている。例えば鈴木氏は「喜永」「景永」「感永」「化永」と予想されている。相田氏は「玉英」「景星」と予想されている。どのように選考されるか興味がありこの研究を行った。

(「平成の次」の元号，有力候補はこの6つ！)

1.2 研究目的

本研究の目的は元号の成り立ちを調べ、元号の必要性を明確にし、選考手順に沿って次の元号を予想することである。

2. 研究方法

まず本，インターネットを用いた文献調査を行い、元号の成り立ちを調査する。次に日本における元号の歴史や制度の調査を行う。そして使用された漢字の意味や使用回数の調査、最近の元号名の傾向を整理する。最後に現在に合う元号名を考察する。

3. 結果

3.1 元号の成り立ち

元号は紀元前の中国，前漢の武帝の時代に漢字と数字の組み合わせで年次を表したのが始まりとされる。皇帝が領土や領民を時間的に支配する，その象徴だったという指摘もある。中国の漢の最初の元号は，紀元前140年に立てられた建元（けんげん）。中国から影響を受けた日本や朝鮮半島，ベトナムなどアジアの漢字文化圏に広まり，日本では西暦645年に孝徳天皇が定めた「大化」から今の「平成」に至るまで1300年余りの間に247の元号が使われてきた。日本ではかつて天皇の代替わりだけでなく自然災害などを理由に改元が

行われていた。「天皇一代で8つの元号が使われた。」という記録もある。

本家の中国では今から100年ほど前(AD1912)辛亥革命によって清朝の滅亡とともに廃止された。その周辺国でも王制から共和制へ移行して、年号文化は消え去った。現在、元号を用いているのは世界で日本だけである。(NHK NEWS WEB, 2018)

3.2 改元手続き

元号法で元号は政令で定めると決められたので、政府の責任は重大となった。いつでも万一の事態に対処できるよう常に万全の準備をしなければならなくなった。

そこで三原総務長官が中心となって「元号選定手続」に関する要領をつくり、昭和54年(1979年)10月23日「閣議報告」の形で公表している。(のち同59年、行政改革により総務長官が廃止されたので、2の(1)(2)3の(1)が「総理府総務長官」が「内閣官房長官」に置き換えられている。)

1. 候補名の考案

- (1) 内閣総理大臣は、高い識見を有するものを選びこれらの者に次の元号とするのにふさわしい候補名の考案を委嘱する。
- (2) 候補名の考案を委嘱される者(以下「考案者」という)の数は若干名とする。
- (3) 内閣総理大臣は各考案者に対し、おおよそ2ないし5の候補名の提出を求めるものとする。
- (4) 考案者は候補名の提出にあたり、各候補名の意味、典拠等の説明を付けるものとする

2. 候補名の整理

- (1) 総理府総務長官は、考案者から提出された候補名について検討し及び整理し、その結果を内閣総理大臣に報告する。
- (2) 総理府総務長官は、候補名の検討及び整理にあたっては次の事項に留意するものとする。

ア・国民の理想としてふさわしいような良い意味を持つものであること

イ・漢字2字であること

ウ・書きやすいこと

エ・読みやすいこと

オ・これまでに元号またはおくり名として用いられたものでないこと

カ・俗用されていないこと

3. 原案の選定

- (1) 内閣総理大臣の指示により内閣官房長官、総理府総務長官及び内閣法制局長官による会議において、総理府総務長官により整理された候補名について精査し新元号の原案として数個の案を選定する。
- (2) 全閣僚会議において、新元号の原案について協議する。また内閣総理大臣は、新元号の原案について衆議院及び参議院の議長及び副議長である者に連絡し、意見をうかがう。

4. 新元号の決定

閣議において、改元の政令を決定する(所功,2018)。

3.3 典籍（書籍や書物）について

年号の文字は中国の書籍や書物から選び出されている。森本氏の前掲書によれば、採用された年号で出典の確認できるものは、合計77種にのぼり、その大半が唐代以前の典籍であると指摘されている（なお、未採用文字案約750の判明する出典も加えて整理すれば、合計106種以上になるという。）

表1 使用された典籍上位10種類

	書名	回数
1位	書経（尚書）	35回
2位	易经（周易）	27回
3位	後漢書	24回
4位	文選	22回
5位	漢書	21回
6位	晋書	16回
6位	旧唐書	16回
8位	詩経	15回
9位	史記	12回
10位	藝分類聚	9回

典籍は5つに分類できる。

表2 典籍の分類

経書類	儒教の基本的な教えを記した書物 (例 書経〔尚書〕, 周易〔易经〕, 詩経, 左伝 など)
史書類	歴史を記述した書物。史籍 (例 後漢書, 漢書, 晋書, 旧唐書, 史記, 宋書 など)
集書類	書物を集めること, またその集めた書物 (例 文選 など)
緯書類	中国の漢代に教書に付会して人事を神秘的に予言した書物 (例 易緯, 詩類, 春秋緯 など)
子書類	孟子が書いた経書をまとめたもの (例 藝文類聚, 莊子, 群書, 老子, 孔子家語 など)

類別では史書類が23種、引文合計も133回で最も多い。次に経書は13種にすぎないが、引文合計は102回にのぼる。

採用年号の出典は、史書類と経書類が大多数を占めており、未採用案を加えると、経書類の尚書（書経）と周易（易経）がとくに多い。次に史書類の後漢書、漢書および集書類の文選が多い。これはおもに治世の理想を表明する年号文字を探すには、古代中国の経書と史書が子類や緯書よりもふさわしい章句を随所に含んでいるからであると考えられている（所功，2017）。

3.4 漢字の読み方

伝来時期により同じ漢字であっても読み方に相違がるため下記のように分類される。

表3 漢字の読み方の分類（所功，2018）

呉音	奈良時代以前に日本へ伝わっていた中国南方音に由来する
漢音	奈良時代以降に伝えられた中国北方音に由来する
唐音	鎌倉時代以降の日本交流の中でもたらされた（宋音）

日本の漢字の読み方はこれらやそれ以外の読み方が混在しているために難しい。

3.5 元号に使われた文字

西暦645年に孝徳天皇が定めた「大化」から、今の「平成」に至るまで1300年余りの間に247の元号が使われてきた。しかし使われた文字の種類は全部で72文字である。

表4 使用された上位10文字

	漢字	使われた回数
1位	永	29回
2位	元・天	27回
3位	治	21回
4位	応	20回
5位	正・長・文・和	19回
6位	安	17回

明治の「治」、大正の「正」、昭和の「和」が多く使われていることがわかる。平成の「平」も12回で使用された回数が多い。しかし昭和の「昭」、平成の「成」は初めて使用された（所功，2018）。

3.6 年号候補・未採用文字案

過去に出典つきの年号案として勘考されながら未だ採用に至っていない文字案が何百もあるのだから、それを活用することを考えてもいいのではないかと考えられている。

「明治」は11回目、「大正」は5回目、「平成」も2回目に採用された。出典の佳句も必要であるが、そこから取り出した良い2文字の組み合わせとその意味こそ重要なのであるから、未採用文字案なども参考にして現代にふさわしいものを選び出すことができるかどうか注目したいとも書かれていた。

未採用年号、未採用文字の候補の表から回数の多いものを抜き出した。

年号の候補として回数の多いものはこの2つである。嘉徳40回、寛安33回、これら以外は30回未満であった。

未採用文字の候補として回数の多いものは、徳が55回（上18・下37）で一番多い。

<平成の場合、「平」が上「成」が下となる。>

これは候補に25回以上あがったもの

表5 候補にあがったが、採用されていない文字（所功，2018）

	上文字使用回数	下文字使用回数	合計使用回数
天	37回	3回	40回
永	20回	13回	33回
長	15回	18回	33回
文	22回	9回	31回
和	10回	20回	30回
建	21回	8回	29回
万	15回	13回	28回
嘉	14回	12回	26回
元	17回	9回	26回
仁	14回	12回	26回
安	10回	15回	25回
応	9回	16回	25回

4. 考察

どんな文字が選ばれるのか不明であるが、前回と同様の基準，出典は漢籍から用いられている可能性が高いと考える。そして過去に出典つきの年号案として勘申（朝廷の儀式などの諸事について、先例，典故，吉凶，日時などを調べて上告すること）されながら未だ採用に至っていない文字案から活用することも考える。

そこで次の元号は「安節」であると考察した。

「安」の文字には、やすらかになる，落ち着く，治まる，安心する，やすらぎ，楽しみなどの意味がある。「節」の文字には、ふし，ひかえめにする（節約），自分の志・行動・主義を固く守って変えないなどの意義を持つ。よって今を節目として，これからはみんなが安心できる社会に変えようという意味がある。今は少子高齢化や格差などいろいろな問題がある。今までの方法では解決できない問題が増えていると思う。だから新しい解決方法を一人一人がよく考えて変えていけるように努力しようというメッセージを込めた。

「安」は、17回採用され、「節」が一度も採用されていない。これは、「昭和」「平成」では、「和」は18回採用されたことがあったが、「昭」は初めてある。「平」は11回採用されているが、「成」が初めてであった。このことから片方は何度も使用されたことのある字、片方は初めて使用される新しい字になるのではないかと考えるため「安節」はこの条件を満たしている。また、「節」は漢籍から出典されており、以前「天節」という元号で候補にあがったことがある。「安節」をインターネットや辞書で検索しても該当するものがなかったことから俗用されていない。「安節」はアルファベットの頭文字としてはAである。「明治」のM、「大正」のT、「昭和」のS、「平成」のHにもかぶらない。ゆえに「安節」という元号を導き出した。

5. 結論

元号は紀元前140年、中国の皇帝が領土や領民を時間的に支配するためにつくられた645年から約1300年間使われてきた。しかし中国では辛亥革命により清朝の滅亡とともに廃止された。周辺国も王制から共和制へ移行して廃止され、年号文化は日本にしか残っていない。

次の元号を予想し考察した。元号は「安節」で今を節目にこれからは安心できる社会に変えようという意味がある。

参考文献

- 鈴木洋仁 東京大学特任助教, 相田満 大学共同利用機関「国文学研究資料館」の准教授
「平成の次」の元号, 有力候補はこの6つ!
<http://ima.goo.ne.jp/life/10202/> (2018年8月14日)
- 所功 (2017) 『日本年号史大辞典 (普及版)』雄山閣
- 所功・久禮旦雄・吉野健一 (2018) 『元号 年号から読み解く日本史』文藝春秋
- NHK NEWS WEB 「平成の次は？新元号を探る」http://www3.nhk.or.jp/news/web_tokushu/2018_0207.html (2018年8月5日)